

「ピーマン育種プロジェクト」で選抜している 新系統の特性

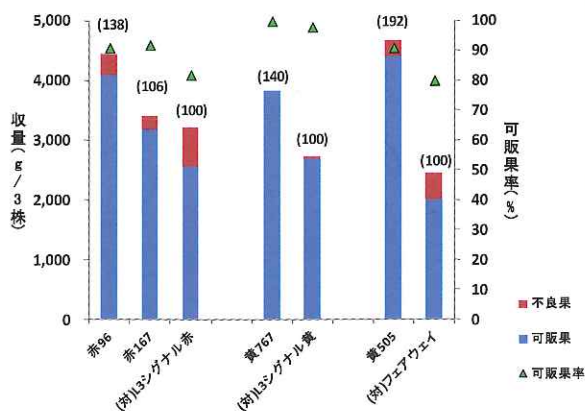


図1 カラーピーマンの収量及び品質
(平成28年11月9日から平成29年1月6日調査)



「赤 96」



「赤 167」



「黄 767」



「黄 505」

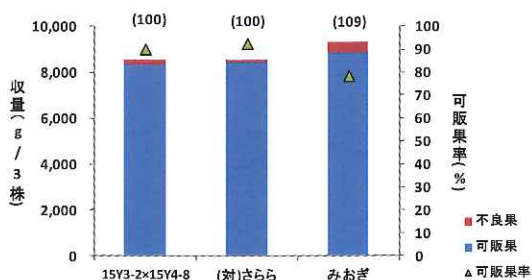


図2 疫病抵抗性ピーマンの収量及び品質
(平成28年10月7日から12月30日調査)



「15Y3-2×15Y4-8」

写真 有望系統 (Bar=5cm)

当センターは、宮崎県を代表機関とする農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業(農食事業)「安全安心な国産農作物安定供給のためのピーマン育種プロジェクト」に参画し、実用的な多収性国産カラーピーマン品種および青枯病・疫病・線虫抵抗性をもつ緑ピーマン品種の育成に取り組んでいます。

今年度、カラーピーマン4系統および疫病抵抗性ピーマン1系統が既存品種より多収であるとして有望と判断しました(図1、2)。「赤96」は「L3シグナル赤」と比べ

辛味があり、果揃いに優れています。「赤167」は果形が長く、こうあ部(枝に付いている側)が平らでした。「黄767」は果揃いに優れ、「L3シグナル黄」とほぼ同等の果形で、「黄505」は「フェアウェイ」よりやや長めの果形でした。疫病抵抗性の「15Y3-2×15Y4-8」は光沢がやや強く、「さらら」と同等の果色でした(写真)。

来年度からは現地試験も始まり、研究グループで連携を図りながら、品種登録や栽培マニュアルの作成に向けて動き始めます。(園芸育種担当 細美祐子 088-863-4916)